

カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検証結果 (社会福祉学科社会福祉専攻)

○令和5年度の前期科目・通年科目についての教育課程の適切性の検証結果は次のとおりである。

(検証事項: 内容の適切性、隣接科目との内容の重複、開講時期、GIOとの整合性、カリキュラムの問題点等)

【成果・できていること】

- ・内容の適切性、隣接科目との内容の重複、開講時期などに関して、基本的に問題がないとする科目が多い。
- ・上記のことは、各教員が学科のディプロマ・ポリシーを意識した教育内容を展開している成果である。
- ・個別の科目では、「人間関係と援助技術」では、「協働のあり方等を学ぶ機会となっている」、社会的養護Ⅰ」では、「保育所保育に留まらない保育士の幅広い専門性、様々な立場の子どもへの理解について学ぶ機会となっている」等の成果が挙げられている。
- ・各学科各専攻で実習時期が異なるため、学科専攻がまたがる科目については、適切にオンデマンドや課題提出型の授業を組み合わせ対応している。

【課題・できていないこと】

- ・ソーシャルワーク実習の実習期間の延長に伴い、事前事後の指導と実習との連動や各実習の適切な期間設定が難しくなった。
- ・一連のソーシャルワーク論の科目では、実習との連続性が課題に挙げられている。
- ・その他の科目では、「社会保障論Ⅰ」では、「総論の内容が展開できなかった部分がある」、「地域福祉と包括的支援体制」では、「半期であるため通年化が望ましい」等、内容の適切性や開講時期についての課題が挙げられている。
- ・ソーシャルワークと保育学と両方を学ぶことの意義を理解していない非常勤講師にディプロマ・ポリシーの説明が必要である。

【その他・今後の検討事項等】

- ・上記のように、「ソーシャルワーク論」系科目では、各科目との関連性および実習との連続性を意識する必要がある。
- ・「児童・家庭福祉支援論」などの複数教員によるオムニバス形式の授業については、シラバス作成の段階で内容の重複については検討しているが、さらに授業目的や達成目標の確認・すり合わせを行っていく必要がある。
- ・学科のディプロマ・ポリシーを達成できるよう、適切な教員配置を考えていく必要がある。